

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	今期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
確かな学力	①	基礎基本の徹底	細呂木タイム等で、国語や算数の基礎的な学力の定着を図る。	細呂木タイム等で、国語や算数の学習の時間を確保している。	教師	取組指標	90	100	「αドリル」や「eライブラリ」を使って、計画的に学習を進めているので、基礎的な学力の定着が図れている。「漢字ドリル」や「計算ドリル」を使って反復練習にも取り組んでいる。	今までに引き続き、系統的に「αドリル」や「eライブラリ」等を計画・実施し、基礎・基本を徹底させていく。できないところは、家庭での自主学習で復習を促していく。	
				細呂木タイム等で国語や算数の基礎的な学力の定着を図っている。	教師	取組指標	90	100			
				細呂木タイム等で、国語や算数の学習に頑張っており取り組んでいる。	児童	成果指標	80	97			
				学校が児童に対して実施している国語や算数の基礎学習の取り組みに満足している。	保護者	満足度指標	80	94			
	②	話す・聞く力の育成	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組む。	児童が自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりする活動に取り組んでいる。	教師	取組指標	90	100	自分の考えや思いを自分の言葉でのびのびと表現できている。個人差もあるが、それぞれ個々に向上が見られる。	伝える場や受け止める場を今後設定し、継続して帰りの会や行事の感想発表等を設定して取り組み、さらなる向上を目指す。	
				自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることができている。	児童	成果指標	80	95			
	③	主体的・対話的学び	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行っている。	教師	取組指標	90	86	対話的な授業に継続して取り組んでおり、少し効果が見えてきた。また、タブレット端末の持ち帰りが定着したため、eライブラリなどの自主学習に取り組む姿勢が見られる。	来年度の自主学習の手引きに、タブレットでの学習を盛り込んだり、様々な学習の仕方載せたりして、内容を充実させて配付する。また、タブレット端末の持ち帰りを進め、eライブラリによる自主学習に楽しく意欲的に取り組めるようにする。	○読書については、児童の評価は高い。 ○児童が読書していることを保護者が実感できるようにするために、タブレットで電子ブックを読むというのはいか。小学生は紙の本の方が良いか。 ○祖父母世代には、タブレット等の使用についてはよくわからない。 ○主体的な学習、読書に関して、子どもと親の意見に大きな差がある。そもそも親はきちんと見ていないのではないか。子が見えなくなってしまったのではないか。親子の対話の中から、発見できるものがあるはず。「本を読んでいるか」ではなく、「本読んでどうやった?」「どう思った?」と聞いてみると良い。 ○読書したことがらについて、学校で発表してみるのも良い。 ○「勉強しなさい」「本を読みなさい」など、子どもたちを型にはめすぎているか。もっと自由にさせてもよいのではないか。
				自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いて、自分の考えを深めることができている。	児童	成果指標	70	95			
				子どもは、自主的に家庭学習に取り組んでいる。	保護者	満足度指標	80	72			
	④	読書習慣の定着	図書館との連携、親子読書やおうち読書、読書貯金ノートの活動を推進させ、読書習慣の定着を図る。	親子読書やおうち読書等、読書習慣の定着につながるような手立てを取っている。	教師	取組指標	90	100	到達目標を、本の冊数から読んだ時間に変えたことで、基準が明確になり、児童が個々に具体的な目標を立てて取り組めるようになった。	各家庭の親子読書の取組を、図書便りで紹介する。また、親子読書カードを、親に読書したことや読書の様子が伝わるような内容に改善する。	
				平日10分、休日30分以上、本を読むことができている。	児童	成果指標	80	92			
				子どもは、平日10分、休日30分の読書の習慣が身につけてきている。	保護者	満足度指標	80	51			
	⑤	ICTの活用	ICTを活用した授業に取り組む。	授業力の向上と授業改善のために、効果的にICTを活用している。	教師	取組指標	90	86	児童がタブレット操作に慣れてきたので、学年に応じてできることが増えてきた。	活用が効果的な場面でもICTやタブレットを活用をしていく。	
				ICTを使った授業で、学習内容がよくわかった。	児童	成果指標	80	99			

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心	⑥	対人関係能力の育成	挨拶運動で個々の振り返りと評価を行う。 ソーシャルスキルトレーニングを学活や道徳の時間に取り入れ、学級内でのよりよい人間関係づくりに生かす。	気持ちの良いあいさつ、正しい言葉づかいや相手のことを思いやる言葉づかいができる子を育てるための指導をしている。	教師	取組指標	90	100	明るいあいさつができ、学校が楽しいと感じている児童が多いと分かる。ソーシャルスキルトレーニングの実施により、より良い人間関係作りができています。教師も明るいあいさつや正しい言葉遣いの指導を進めることができました。よいあいさつの意識づけとして、「あいさつビンゴ」も行った。今後も継続して行きたい。	引き続き、ソーシャルスキルトレーニングを今後も実施し、さらによりよい人間関係を継続できるようにしていく。教員は、児童が悩んでいることや困っていることなどを相談しやすい雰囲気作りに努めていく。明るいあいさつや、場に応じた正しい言葉遣いの指導も適宜指導していきたい。地域の人も進んで元気なあいさつができるよう指導し、あいさつに関する取り組みを行っていく。また、児童クラブの先生とも連携を密にし、放課後の児童の様子もしっかりと把握していく。	○スキー教室の講師を務めたが、速い子と遅い子の差があっても、速い子は待っている。その間、励ましの声をかけている。遅いことに文句を言わない。みんなやさしい。 ○子ども園からずっと一緒というのが大きい。 ○門松づくりの時など、積極的にわからないことを質問してくる。地域の声かけがあり、地域で育っている。
				学校・地域・家庭で、明るいあいさつ、正しい優しい言葉づかいができています。	児童	成果指標	80	99			
				子どもは、明るいあいさつや正しい言葉づかい、優しい言葉づかいができています。	保護者	満足度指標	80	93			
				ソーシャルスキルトレーニング等を実施し、子ども同士のよりよい関係づくりに努めている。	教師	取組指標	90	100			
				学校が楽しい。	児童	成果指標	80	100			
				子どもは、学校へ通うのが楽しいと感じている。	保護者	満足度指標	80	94			
				道徳の授業や学校生活を通して、いじめや差別を許さない指導をしている。	教師	取組指標	90	100			
				相手の気持ちを考え、相手が嫌がることをしないようにする	児童	成果指標	90	92			
	学校は、子ども一人一人を大切にしている。	保護者	満足度指標	90	99						
	⑦	社会性	縦割り班活動、体験活動等を通して、人権意識、思いやり、認め合う心等を育む。	学活や道徳の時間、縦割り班活動、体験活動等を通して、自主的に活動し、協力し合うことやお互いを思いやる心を育てるための学習を心掛けている。	教師	取組指標	90	100	縦割り遊びや、なわとび大会など、下級生にやさしく接する児童が多く見られ、みんなで楽しく活動する様子が多く見られた。地域学習の機会も多くなり、地域の人たちとの交流も増えてきた。	今後も、縦割り活動・地域活動に力を入れ、子ども達同士で協力する気持ちや思いやりの心、ふるさとを愛する心を育てていきたい。	
				縦割り班活動では、小さい子に優しくできる等、人を思いやる気持ちを大切にしている。	児童	成果指標	80	99			
				学校での縦割り班活動、体験活動等は、子どもの協力する心や思いやりの心を育てるのに役立っている。	保護者	満足度指標	80	100			
⑧	チャレンジ精神の育成	目的意識をもって、あきらめずにチャレンジする心を育む。	目標設定、振り返りをさせ、達成感を味わえる活動を行っている。	教師	取組指標	90	100	行事ごとに自分の目標を決め、お家の方からの言葉ももらい、子どもたちの励みになっているようだ。また、自分で進んで目標を決めている児童も見られるようになった。	今後も、行事等に向けて目標を決め、それに向かっていくチャレンジ精神をさらに育てていきたい。		
			目標をもって、いろいろな活動に取り組んでいる。	児童	成果指標	80	96				
			子どもは、目標をもって活動している。	保護者	満足度指標	80	93				

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標指標	目標指数	今期指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
健やかな心と体	⑨	基礎体力の向上	体育の授業や細呂木タイム(週2回、マラソン、ドッジボール、キックベースボール、縄跳び等)において体づくり運動の強化及び基礎体力の向上を図る。	体育の授業や細呂木タイムで、めあてをもって取り組ませ、体力向上を図っている。	教師	取組指標	90	100	体力向上の取組、学年通信やHPでの連絡、振り返り用紙(めあてを立て、家庭からの励ましの言葉をもらう)などの取組により、効果が出ている。	引き続き、めあてをもたせたり、マラソンやなわとびカードを書かせたりして、体力向上について、意識させる。	
				体育の授業や細呂木タイムの体づくりにより、めあてをもって取り組んだ。	児童	成果指標	90	99			
				昨年または年度初めのころと比べ、(体育の授業や細呂木タイムでマラソン、ドッジボール、キックベース、縄跳び等を行い)子どもの体力は向上した。	保護者	満足度指標	80	92			
	⑩	心身ともに健康な体の育成	「いじめ防止基本方針」に基づき、「心のアンケート」や「教育相談週間」を活かして子どもの心を把握し早期対応を行うとともに、月1回のアンテナ会議及びその後の対策会議の実施で問題の早期解決を図る。	心のアンケートや教育相談週間を生かして、問題行動の未然防止と早期発見・早期対応・事案対処に努めている。	教師	取組指標	100	100	学校では、いじめ未然防止や早期発見等に努めており、悩み事をすぐに教師や家族に相談できるように配慮している。また、年3回のアンケートや教育相談週間の実施により、問題の早期発見に努めている。	今後も、常にいじめ対策チームを組織運営し、全体で児童の状況把握に努め、チームで対応する。日頃から学校、学級で話しやすい雰囲気づくりに努める。教師の目に見えないところで起きていることや悩みを打ち明けられない児童について情報収集し、早期発見・解決できるようにする。スクールカウンセラーによるSOSを求める学習を行った。今後も、SOSが出せる環境を整えていく。	
				学校で嫌なことや困ったことがある時は、先生や友だち、家族に相談し、悩みや問題を解決することができる。	児童	成果指標	95	95			
				我が子に関して、学校と連絡(家庭訪問・連絡帳の活用含む)を取り合い、子どもを安心して送り出すことができる。	保護者	満足度指標	95	97			
	⑪	生活習慣(食育を含む)	日常的な健康習慣づくりを継続する(給食の時間、栄養士訪問、清潔チェック等)。	日常的な健康習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	日常的な健康習慣は、ほぼ身につけていると思われるが、食のマナーについては、今後も継続的に指導していくこと大切である。	日常的な健康習慣づくりの指導を今後も継続していく。	
				朝の清潔検査・菌みがき・食のマナーを守ることができた。	児童	成果指標	80	96			
				子どもには、学校での日常的な健康習慣づくり(清潔チェック・菌みがき・食のマナー等)の指導が役立っている。	保護者	満足度指標	80	88			
	⑫	情報モラル	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールや習慣づくり、指導する。	家庭と連携し、健全なネット利用(情報モラル含む)についてルールづくり、習慣づくりの指導をしている。	教師	取組指標	90	100	学校、家庭でのルール作りや習慣づくりに努めている。	タブレットの持ち帰りに合わせて、ネット利用やテレビ、ゲームの使い方や使用時間などのルールについての指導を継続して行う。	
				ネット利用やテレビ、ゲームの時間等、約束したことを守ることができた。	児童	成果指標	80	93			
				家庭では、学校と連携して健全なネット利用(情報モラル含む)についてのルールづくりや習慣づくりが、できている。	保護者	満足度指標	80	89			

○情報モラルについて、自分で判断していく力を身に付けさせる必要がある。  
 ○タブレットの管理について、持ち帰りの際に、破損させてしまわないか心配している。管理することが重荷である。  
 ○タブレットの持ち帰りは絶対に必要なのか。  
 ○タブレット使用に関して、教職員の戸惑い、つらさはないのか。→精神的に大変だが、頑張っており取り組んでいる。

項目	No.	重点目標	具体的取り組み	評価の観点	評価者	目標 指標	目標 指数	今期 指数	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
開 か れ た 学 校	⑬	ふるさと教育の充実	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、外部関係機関やこども園等と連携しながら、ふるさと教育を充実させる。	地域にある文化財や地域行事等を活用したり、地域と連携しながら、ふるさと教育を行っている。	教師	取組指標	90	100	冬期間は活動が少なかったが、子どもたちの自主的、主体的な学びにつなげていくことができた。	体験活動だけではなく、地域のよさに気付くような事前・事後学習を行う。	○HPへのアップへの頻度はどうなっているのか。→学校行事や学年ごとの校外学習、発表会などの授業の様子をアップしている。 ○不審者対応に関わる避難訓練、その他の対応は地域に閉じた活動になるが必要なことである。 ○避難訓練だけではなく、自衛のための訓練や、刺された際の救護訓練も必要になってくる。
				地域の学習に参加して、地域に興味がわいた。	児童	成果指標	90	95			
				子どもは、地域の学習に進んで参加している。	保護者	満足度指標	80	97			
	⑭	積極的な情報発信	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子の情報発信を行う。	学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や児童の様子の情報発信を行っている。	教師	取組指標	90	100	学年通信や学校だより、ホームページでの学校行事の様子の紹介等、保護者への情報発信を積極的に行った。特に、学年活動の様子をホームページでタイムリーに紹介することができた。保護者の満足度も高かった。	今後も情報発信を積極的に行い、家庭との連携を充実していく。学校の様子、各学年の様子がより伝わるように、ホームページを充実していく。	
				学校からの各種お便りやホームページ等で、学校や子どもたちの様子がわかる。	保護者	満足度指標	85	92			
	⑮	安心安全な学校作り	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行う。	日常生活の中にひそむ現在および将来に直面する安全の課題に対して、自分の身を守るように、安全教育を行っている。	教師	取組指標	90	100	避難訓練（不審者対応）、引渡訓練等の実施により、学校安全に対する意識を高めることができた。また、日常の授業や生活の中で、健康で安全に生活をすることができるよう意識付けを行った。	今後も、安全に生活ができるように、学校教育全般を通して指導していく。	
学校は、「生活安全、交通安全、災害安全」に対する安全教育を行っている。				保護者	満足度指標	80	99				